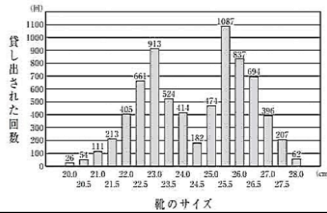


本単元でよく見られる生徒のつまづき

あるボウリング場には貸出し用の靴が200足あるが、古くなったため、新たに200足を購入して一新する。下の調べたことから購入する靴の数とサイズをどのように決めればよいか。

〔調べたこと〕

- ・貸し出された回数の合計 7260回
- ・貸し出された靴のサイズの平均値 24.5cm
- ・貸し出された回数を靴のサイズごとに表したグラフ



【誤答例①】 平均値が24.5cmなので24.5cmの靴を最も多く購入する。

【誤答例②】 最頻値である25.5cmの相対度数を求めることができない。

相対度数を確率とみなすことや確率の意味についての理解が十分でない。

授業での指導の工夫

【本時の目標】 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。

【日常の事象から問題を提示】

- ・「必ず～になる」とは言い切れない日常生活の事象を、数を用いて考察したり判断したりできるように数学化する過程を学習できる問題を提示します。

【系統性を意識した指導】

- ・第2学年「確率」への系統性を意識し、得られた結果を具体的な場面に活用して確率の必要性を実感できるようにします。

【相対度数で問題を焦点化】

- ・相対度数の活用で問題を更に焦点化する過程を知ることにより、相対度数を確率とみなす考え方を深められるようにします。

【対話を通じて理解を深める場面の設定】

- ・得られた結果を振り返って考察する過程において、筋道立てて説明し伝え合う活動を設定することにより、対話を通じて確率の意味の理解を深められるようにします。

授業づくりで大切にしたいこと

- 問題を数学化したり焦点化したりする過程の位置付け
- 単元全体や系統性を見通した指導の工夫
- 筋道立てて説明し合いながら理解を深める場面の設定